

講義の風景

商学部

斯波照雄教授

Shiba Teruo

FLP「地域・公共マネジメント」

[火曜日6限]

中世チューリヒについて

訪ねたのは、多摩キャンパス5号館5709号室。FLP斯波ゼミには2、3、4年生が所属し、3年生と4年生のゼミは2学年合同で行なわれている。この日は、2年生が履修する演習Aで、主に文献講読が行なわれ、文献を正確に読み、併せてその内容を報告するプレゼンテーション能力の向上を目指している。

斯波教授は「比較都市史」が



発表する高木辰弥さん

『比較都市史の旅』（比較都市史研究会編）を教材にして、西洋の都市の特徴についての比較・検討に取り組んでいる。

この日の発表者は商学部2年の高木辰弥さん。ゼミ生は『比較都市史

『比較都市史の旅』を教材に研究発表

文献講読とプレゼン能力向上を目指す

専門。水曜日3限の「商業史」の授業でも教鞭を執っていて、ゼミと併せて「商業史」の講義を履修する学生もいる。

演習Aでは、前期に『歴史とは何か』（E.Hカー著）を輪読し、歴史的な見方について学び、後期からは

の旅』で扱われているパリ、ヨーク、杭州など様々な都市から興味を持つた都市を選んで発表を行なっており、高木さんが選んだテーマは「中世のチューリヒ〜都市の景観と自治の確立」。

「都市の特徴を調べるために、『比

較都市史の旅』以外にも、膨大な数の資料を読み込む必要があった。発表までの準備がとても大変でした」と高木さん。チューリヒを選んだのは、「もともとスイスという国に興味があり、アルプスなどの自然と都市の関わりを知りたかったから」という。

質疑応答と先生の解説

レジュメが配布され高木さんの発表が始まった。まず、スイスが中世都市の宝庫であったという説明から始まり、13世紀の都市建設ラッシュは、四大河川が輸送の主要ルートとなっていたという経済的理由と、領域拡大や支配拠点のための城塞が必要であったという政治的・軍事的理由によるものであったということが述べられた。

また、高木さんは都市の景観については、当時の絵などを紹介。それを見ながら、中世チューリヒの情景を説明した。

学部の枠を超えて、学際的な視点から専門知識の修得と問題解決能力を高めることを目的にしたFLPには、「環境」「ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」の5つのプログラムがある。火曜日6限に開かれている斯波照雄商学部教授のゼミナールは「地域・公共マネジメント」プログラムのひとつだ。



「継続して興味を」と話す斯波教授

一通り発表が終わると、質疑応答が行なわれ、発表者以外の5名のゼミ生が次々と挙手。応答は、基本的に発表者が行なうが、専門的な内容に関しては斯波先生が丁寧に解説。最後に斯波先生は「発表した後に、もっと知りたい、そこに行ってみると、もう一步さらに踏み込んで考えるようにして欲しい。一過性のもにしないで、継続して興味をもつて欲しい」と注文した。

60分間の発表を終えた高木さんは「前期の発表では緊張していたが、今回は、発表を聞いている側が興味を持てる内容を話せるように意識して、できました」とほっとした表情。
来年2月、四日市市を調査
演習Aでは、今年9月に「地域・公共マネジメント」プログラム合同の2泊3日のサマースクールを実施。訪れた静岡県掛川市の「観光戦略」

について政策提言を行い、報告書をまとめた。

「報告書は6人それぞれの意見を集約し、客観的に指摘していった結果、良い共同作品になった」とゼミ長の渡辺康彦さん。また「掛川市の調査では事前に何をすべきかわからず、現地に行つてから、やらなければならぬことに気がついた」という。

来年2月には、三重県四日市市の現地調査に行く計画で、そのための準備を進めている。渡辺さんは、「四日市市の調査では、掛川市での反省



活発に質疑応答するゼミ生

を踏まえて、事前準備をしっかりとしていきたい」と意気込んでいる。
(学生記者 藤森皓子 文学部2年)